

小児科外来での導入事例

ゆいクリニック

イムノクロマトキットだけの診断では、ウイルスの重感染、細菌感染の合併を見落とす可能性が考えられるため、私はCBC、CRPの検査を併用することが多いです。

- 使用機器：自動血球計数 CRP 測定装置 Microsemi LC-667CRP
- 測定項目：CBC、CRP
- 検査件数：4～5件／日

Q1 1日何名くらいの患者様を診察されますか？
またそのうち、何名くらいのCBCとCRPを検査されますか？

A1 外来で一日30名くらいです。そのうち平均して4～5件程度、CBCとCRPの検査をしています。

Q2 どのような状態の患者様を検査されることが多いですか？

A2 呼吸困難、発熱が続き肺炎を疑うような**感染症の場合で、外来点滴か基幹病院に紹介するかの判断の目安に、必ずCBCとCRPを一緒に検査します。**ほかの疾患で精査が必要と判断したときも採血をして、CBCは外来で迅速検査をして貧血や血小板、白血球の分画を必ず確認します。

Q3 イムノクロマトキットと、CBCとCRPの検査を併用されていますが、どのように使い分けていらっしゃいますか？

A3 イムノクロマトキットは、症状に応じてインフルエンザ、アデノウイルス、RSウイルス、ヒューマンメタニューモウイルス、ロタウイルス、ノロウイルス、溶連菌、肺炎球菌、マイコプラズマの検査に使用しています。**イムノクロマトキットだけの診断ではそれぞれのキットに10%前後のfalse negativeが存在するため、私はCBC、CRPの検査を併用することが多いです。**多種類のウイルスや細菌の重感染があるとイムノクロマトキットで陽性にならず、CBCで血小板、白血球が減少していてインフルエンザウイルスと判断して治療したケースもあります。インフルエンザでは肺炎の合併も見逃してはいけないので、その疑いがあれば必ずCBC、CRPを測定します。



ゆいクリニック 院長
小児科専門医
日本東洋医学会専門医
医学博士

由井 郁子先生

専門：小児科

【CBC】赤血球・白血球・血小板等の血液中の有形成分の数と形態を検査。全身の容態を把握する目安となる。

【CRP】(C反応性蛋白) 体内で炎症がおこっている時に、血液中に増加するタンパク質。感染症等の目安になる。



臨床症状から重症か、重症でないかをご自分の臨床眼から判断なさる先生もいらっしゃると思います。しかし、誤診を避けるためにも、私はCBCとCRPの検査は必須と感じています。

Q4 ワクチンの普及とともに、重症化する患者様は減っているのでしょうか？
問診でワクチン接種をしていれば、検査をしなくても大丈夫でしょうか？

A4 ワクチンはオールマイティではないと思います。ヒブワクチンを打った後に髄膜炎に感染したケースでは、ワクチン株とは別の血清型の髄膜炎だったという報告もあり、患者様の症状に合わせてCBC、CRPを検査しています。

Q5 院内で検査をされない先生方も多いですが、院内検査をアドバイスされる場合のポイントはどこでしょうか？

A5 臨床症状から重症か、重症でないかをご自分の臨床眼から判断なさる先生もいらっしゃると思います。しかし、**誤診を避けるためにも、ベッドサイドで10分以内に多くの情報が得られるCBCとCRPの検査は、状況に応じて行うべき必須のアイテムと私は感じています。**

Q6 CRPの値がいくつ以上であれば病院を紹介するなどの基準はございますか？

A6 **CRPが5mg/dL以上だと肺炎を強く疑い、X-Pの適応となるか総合判断をします。** アデノウイルスはウイルス感染の中では唯一CRPが高値となりますので、イムノクロマトキットでアデノウイルスが陰性だった場合は、細菌感染症か否かの判断は白血球の分画を参考にして総合判断をいたします。

Q7 先生が、診察をされる上でのモットーを教えてください。

A7 **病気は遺伝子、環境因子の複雑な絡み合いで、多因子で起こってくると考えていますが、人間には本来自己治癒力があり、その治癒力をサポートできる生活の知恵を含めたアドバイス、治療、投薬を心がけています。** 基本的には身体の土台を作るのは食物の栄養であり、いわゆる農薬や食品添加物などの環境毒が含まれないものを食べることが、本来とても重要だと考えています。



施設インフォメーション

施設名： ゆいクリニック
住 所： 神奈川県川崎市幸区
下平間39 2F
電 話： 044-520-0205
F A X： 044-520-0206
診察科目： 小児科



自動血球計数CRP測定装置
Microsemi LC-667CRP
製造販売届出番号：26B3X00002230004

Microsemi LC-667CRPは全血、検体吸引量18μL、約4分でCBCとCRPを同時に測定できます。

株式会社 堀場製作所

医用営業統括室 TEL(075)313-5736(直) FAX(075)313-8177 e-mail: info@horiba.co.jp http://www.horiba.co.jp

●北海道 (011) 207-1800(代)
●大阪 (06) 6390-8013(直)

●東北[仙台] (022) 308-7890(代)
●四国 (087) 867-4800(代)

●東京 (03) 6206-4719(直)
●広島 (082) 288-4433(代)

●名古屋 (052) 936-5781(代)
●九州 (092) 292-3593(代)

カタログNo. YMT-338